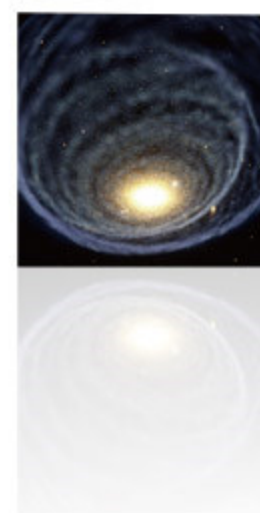
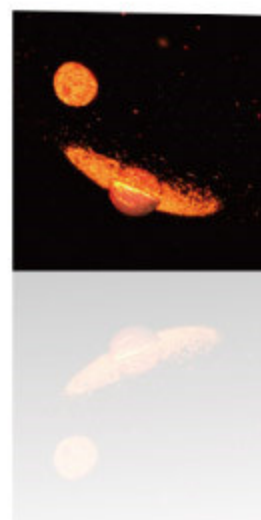
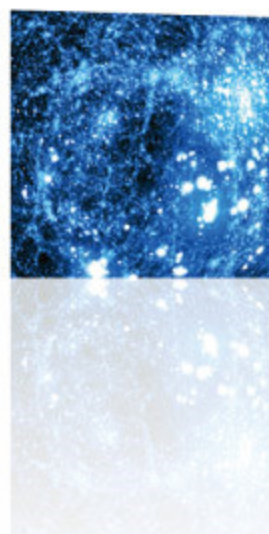
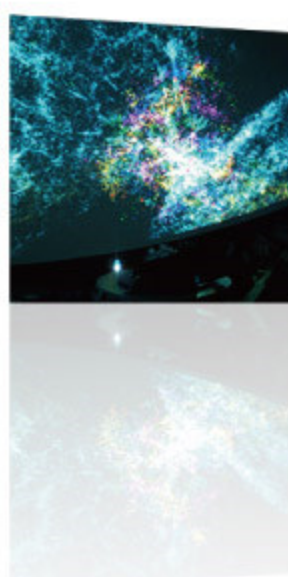
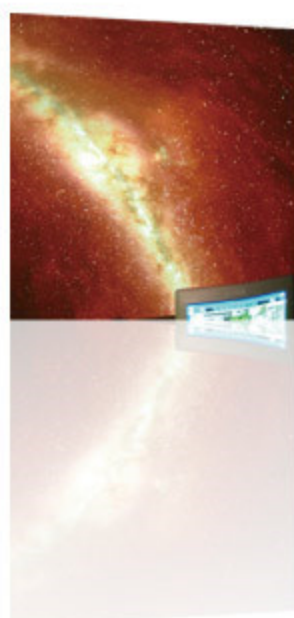


国際科学映像祭
ドーム & 立体プレイベント 2009

開催報告書

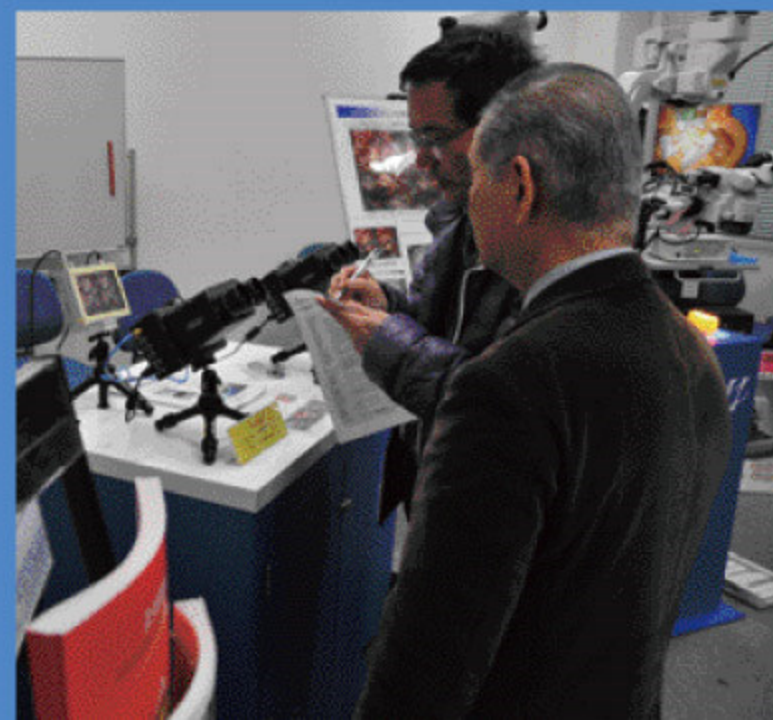


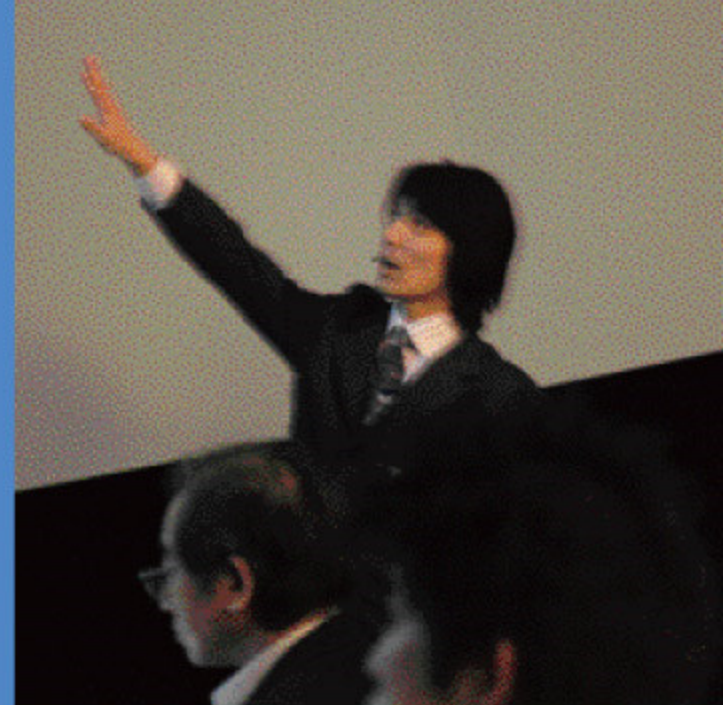


オープニング・イベント 2009年3月13日 @ 科学技術館

1	2	3
4	5	6
7	8	9

- 1) 科学技術館正面玄関
- 2) 有馬朗人実行委員長代理の坪井健司企画委員による開会宣言
- 3) 会場の様子
- 4) 櫻井隆氏(大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 副台長)による開会挨拶
- 5) 招待講演:大村皓一氏「Past, Present, and Future of Computer Graphics and Scientific Visualization」
- 6) 招待講演:Alyssa A. Goodman氏「Seeing Science」
- 7) シンラドームでのデモンストレーション
- 8) シンラドームでのデモンストレーション:解説する大村皓一氏と戎崎俊一運営委員
- 9) 懇親会





4D2U サミット 2009年3月16日-17日 @ 国立天文台

1	2
3	4 5
7	6

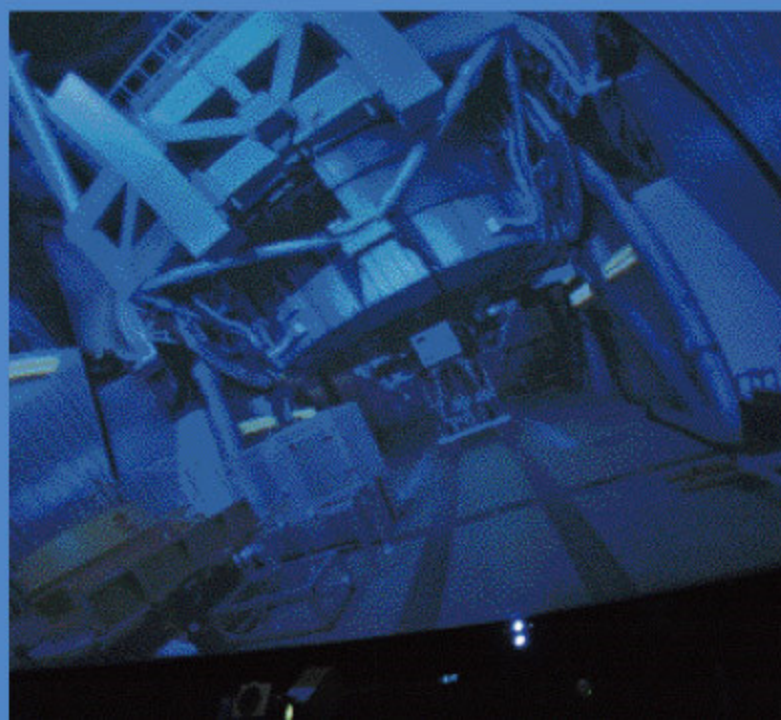
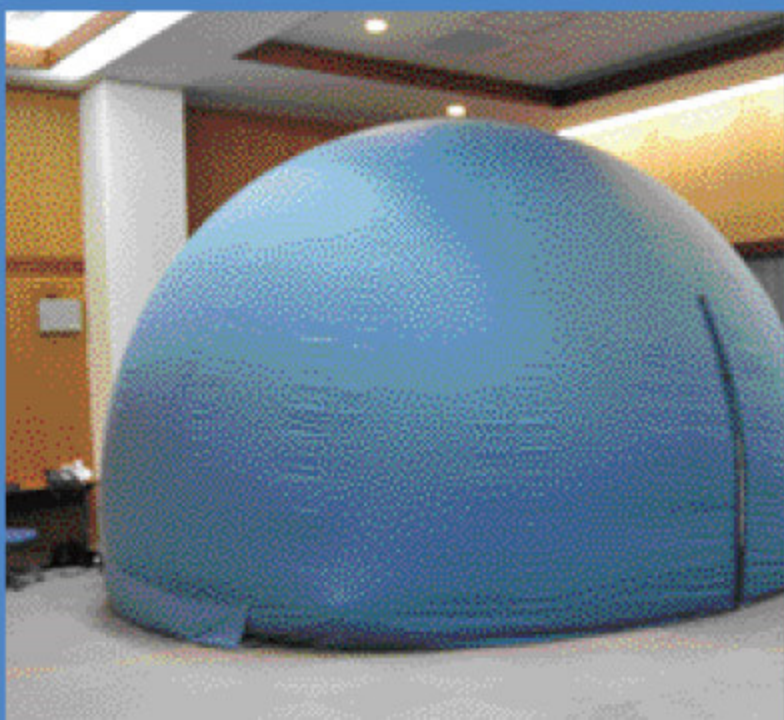
- 1) 4D2U ドームシアターにて議論中
- 2) デモンストレーションの前に、食数科学センターの紹介 (三島和久氏)
- 3) Live performance < Virtual Resonance~sound image for 4D2U >
- 4) 笙の演奏家・高原聡子氏
- 5) Sax 奏者・大石将紀氏
- 6) 作曲, Keyboard, PC 担当の宮木朝子氏
- 7) 集合写真

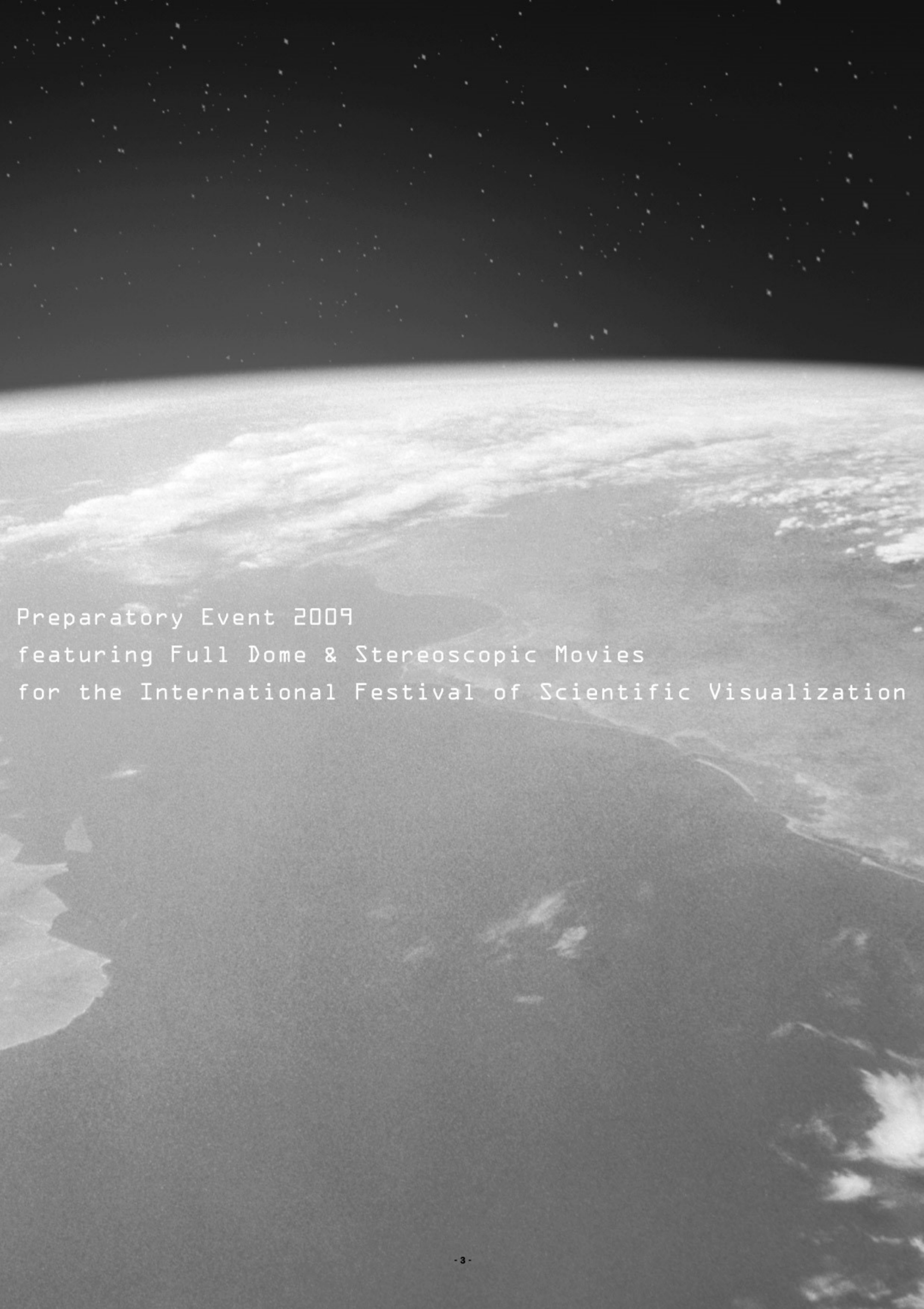
イベントの様子

国際シンポジウム
2009年3月22日-23日
@ 国立天文台

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

- 1) Carter Emmert 企画委員
- 2) Shawn Laatsch 氏
- 3) ブース展示: 三鷹光器株式会社
- 4) ブース展示: 天窓工房
- 5) 4D2U シアターでのデモンストレーション





Preparatory Event 2009
featuring Full Dome & Stereoscopic Movies
for the International Festival of Scientific Visualization

実行委員長挨拶

2009年3月13日(金)から23日(月)までの11日間、国際科学映像祭 ドーム & 立体プレイベント 2009 実行委員会の主催(共催:大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台、財団法人 日本科学技術振興財団)により、「国際科学映像祭 ドーム & 立体プレイベント 2009」を開催した。

このプレイベントは、良質の科学映像コンテンツを広く紹介し、多くの人々に見ていただける機会を提供すると共に、コンテンツや技術開発に関わる人々の情報交換及び科学映像クリエータの育成に供する場として新たな国際的科学映像祭の開催を目的に、意見交換や準備を目指して実施した。

イベントは、東京都内の16会場で協力機関・団体が実施した科学映像を紹介するプログラムと、実行委員会が主催する3つのコアプログラムで構成された。前者として、各施設の様々なシアターで一般の来場者に科学映像をご覧頂くことに加え、3月14日(土)から4月5日(日)までの23日間に渡って13会場でスタンプラリーを実施した。この機会に多くの方に様々な会場の映像を体験頂き、また複数の会場を訪れて頂くことができた。後者としては、科学技術館でのオープニング・イベント、国立天文台三鷹キャンパスでの4D2Uサミットと高臨場感科学映像国際シンポジウム(International Symposium for Immersive Science Visualization)を行った。それぞれドームや立体による科学映像に関心を持った色々な層を対象としたが、各イベントが盛り上がりを見せたことは幸いであった。

開催に際して、合計60の団体にご協力を頂いた。とりわけ、独立行政法人 理化学研究所には特別なご協力を頂いた。国際科学映像祭 ドーム & 立体プレイベント 2009 実行委員会を代表して、ご尽力下さった関係者の皆様、各プログラムにご参加下さった方々にお礼申し上げます。

有馬 朗人

(財団法人 日本科学技術振興財団 会長・科学技術館 館長)



「国際科学映像祭ドーム&立体プレイベント 2009」

開催の経緯と意義

21世紀を迎え、世界の科学研究がめざす領域はますます広がると共にその内容も深まっています。それらは一般市民の生活との関わりの中で進歩を遂げているにも関わらず、科学研究を支えるはずの市民がそれらを理解するのはより困難になっています。

科学映像はそうした市民にとって科学の理解を助けてくれる優れたメディアであり研究者にとっても理解を広げる手段としてその重要性を増しています。特にミクロな世界を垣間見たり、宇宙の全貌を示すばかりか進化や歴史さえも計算によって再現する近年のシミュレーションや可視化の技術の発展は、これまでの想像を超えた驚くべき世界を描き出すことを可能にしました。さらにドーム映像や立体映像は見る者に映像との一体感を与え画面の中へと引き込みます。

私たちは、そうした良質の科学映像コンテンツを広く紹介し、多くの人々に見ていただく機会を提供すると共に、コンテンツや技術開発に関わる人々の情報交換及び科学映像クリエイターの育成に供する場として新たな国際的科学映像祭の開催をめざします。

本イベントは、科学映像祭開催が一般市民や研究者に対してどのような意味を持つのか、あるいは何をもたらすのか等を探り、意見交換の場を広げ将来の可能性を展望することを目的に実施いたします。

日本科学技術振興財団 会長 有馬朗人
自然科学研究機構国立天文台 台長 観山正見

組織

主催：国際科学映像祭ドーム&立体プレイベント 2009 実行委員会

共催：大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台

財団法人 日本科学技術振興財団

協力：(五十音順)

3D コンソーシアム、3D フォーラム、American Museum of Natural History、Evans & Sutherland、Imiloa Astronomy Center of Hawaii、SCISS AB (Uniview)、Sky Skan, Inc., U.N. Limited、(株)アストロアーツ、(株)アスナ、アスミック・エース エンタテインメント(株)、板橋区立教育科学館、(株)ウォーク、(独)宇宙航空研究開発機構、(社)映像文化製作者連盟、(株)エクサ、(有)大平技研、オフィス木村、(株)オリハルコンテクノロジー、KAGAYA スタジオ、葛飾区郷土と天文の博物館、(株)学習研究社慶応義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構、京都大学、(独)国立科学博物館、(株)五藤光学研究所、コニカミノルタプラネタリウム(株)、サイエンス映像学会自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター、情報・システム研究機構 ライフサイエンス統合データベースセンター、杉並区立科学館、すみだ生涯学習センター、世界天文年 2009 日本委員会、(株)ゼロユニット、(株)ソリッドレイ研究所、多摩六都科学館組合、デジタル・キャンプ、(有)天窓工房、(財)天文学振興財団、(株)東京現像所、東京大学、(財)日本宇宙フォーラム、日本科学未来館、(社)日本天文学会、日本プラネタリウム協議会、八王子市こども科学館、「はやぶさ」大型映像製作委員会、東大和市立郷土博物館、(財)府中文化振興財団、プラネターリアム銀河座、三鷹光器(株)、三鷹市、NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構、(財)民間放送教育協会、武蔵野美術大学、(株)モンタージュ、(独)理化学研究所、(株)リブラ、和歌山大学、渡邊洋一

「国際科学映像祭 ドーム&立体プレイベント 2009」実行委員会(五十音順)

実行委員長.....

有馬朗人(日本科学技術振興財団)

企画委員.....

有馬朗人(日本科学技術振興財団)、今井裕司(コニカミノルタ・プラネタリウム(株))、岡村定矩(東京大学)、Carter Emmert(American Museum of Natural History)、五藤信隆((株)五藤光学研究所)、佐々木正峰(国立科学博物館)、武田健二(理化学研究所)、坪井健司(日本科学技術振興財団)、中島義和(日本科学未来館)、観山正見(国立天文台)

運営委員長.....

縣 秀彦(国立天文台)

運営委員[幹事].....

戎崎俊一(理化学研究所)、富田 悟(理化学研究所)、長尾英二(日本科学技術振興財団)、中野良一(日本科学技術振興財団)、牧野淳一郎(国立天文台)、山田英徳(日本科学技術振興財団)

運営委員.....

安藤幸央((株)エクサ)、池本誠也(国立科学博物館)、泉 邦昭(3Dコンソーシアム)、大口孝之(映像クリエイター/ジャーナリスト)、大平貴之((有)大平技研)、尾久土正己(和歌山大学)、栄井隆典(日本科学未来館)、阪本成一(宇宙航空研究開発機構)、柴田一成(京都大学)、高橋由昭((株)五藤光学研究所)、高幣俊之((株)オリハルコンテクノロジー)、田中正明((株)五藤光学研究所)、田部一志(日本プラネタリウム協議会デジタルプラネタリウムワーキンググループ代表)、羽倉弘之(3Dフォーラム)、本間隆幸(府中市郷土の森博物館)、三浦 均(武蔵野美術大学)、山田 稔(コニカミノルタ・プラネタリウム(株))、渡部健司(デジタル・キャンプ)

事務局.....

伊東昌市(国立天文台)、岩下由美(国立天文台)、奥野 光(日本科学技術振興財団)、小池裕志(国立天文台科学文化形成ユニット科学プロデューサー養成コース修了生)、中山弘敬(国立天文台)、平井 明(国立天文台)、松浦 匡(日本科学技術振興財団)

プレイベント

プレイベントの主な内容として、**1**協力機関・団体が実施する科学映像を紹介するプログラム、**2**実行委員会が主催するコア・プログラム、そして実行委員会が実施する各機関・団体への支援プログラムで構成した。

1 協力会場での実施プログラムの内容

各機関・団体が保有する番組やコンテンツを中心に上映し、可能な範囲で観覧できる機会を増やす目的で、各機関・団体が保有する予算で可能な行事を行っていただくことにした。協力会場は、以下の 16 会場。

板橋区立教育科学館、宇宙航空研究開発機構 情報センター JAXAI、科学技術館、葛飾区郷土と天文の博物館、国立科学博物館、国立天文台 4 次元デジタル宇宙シアター、コニカミノルタプラネタリウム“満天”、杉並区立科学館、多摩六都科学館、日本科学未来館、サイエンスドーム八王子、東大和市立郷土博物館、府中市郷土の森博物館、プラネタリアム銀河座、三鷹ネットワーク大学、ユートリヤ・スターガーデン（すみだ生涯学習センター）

トの全体像

2 実行委員会が主催するコア・プログラム

- ① オープニング・イベント（3月13日・科学技術館）
・記者発表、式典、協力会場紹介、デモ、パーティー
- ② 4D2Uサミット（3月16-17日・国立天文台）
・4D2U ユーザーズ・ミーティング
- ③ 高臨場感科学映像国際シンポジウム
（3月22-23日・国立天文台）
・研究発表、講演、パネルディスカッション、パーティー

なお、**1 2**を実施するため実行委員会は次の支援を行なった。

- ① 「国際科学映像祭ドーム&立体プレイベント2009」のWebを立ち上げ、各会場における実施プログラム内容など広く周知する活動を行う。
- ② ポスター及びパンフレットを作成し、会場館の紹介、全体スケジュールの中で各会場別の実施内容を紹介する。
- ③ 各会場館を回るスタンプラリーを考案し、参加者の便宜と各館の来館者増を図る。

スタンプラリー実施会場 13会場：

板橋区立教育科学館、宇宙航空研究開発機構 情報センター JAXAi、科学技術館、葛飾区郷土と天文の博物館、国立科学博物館、国立天文台 4次元デジタル宇宙シアター、杉並区立科学館、多摩六都科学館、日本科学未来館、サイエンスドーム八王子、東大和市立郷土博物館、府中市郷土の森博物館、ユートリヤ・スターガーデン(すみだ生涯学習センター)

コア・プログラム

(1) オープニング・イベント

国際科学映像祭ドーム&立体プレイベント2009の開幕としてまた実行委員会主催コア・プログラムの一つとして、2009年3月13日(金)に科学技術館(東京都千代田区北の丸公園)を会場にオープニング・イベントを開催した。

対象は広くドーム映像及び立体映像関係者とし、コンテンツ制作者、技術者、研究者、事業者等、様々な立場の方にお集まり頂いた。参加申し込みは実行委員会ウェブサイトで受け付け、約80名の参加があった。

開会に先立ち、科学技術館事務棟6階第1会議室において、本プレイベントの開催に関して記者会見を行った。企画委員によるプレイベントの紹介を、3社5名に取材頂いた。

オープニング・イベントは、地階サイエンスホールにて開催した。

有馬実行委員長代理の坪井企画委員による開会宣言、観山企画委員によるビデオレターと代理の櫻井隆氏(大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台副台長)による開会挨拶に続き、来賓の沼田篤良氏(サイエンス映像学会理事・ディスカバリージャパン代表取締役会長)、加藤賢一氏(日本プラネタリウム協議会理事長・大阪府立科学館学芸課長)、Shawn Laatsch氏(Treasurer and Membership Chair, International Planetarium Society・Planetarium Manager, Imiloa Astronomy Center of Hawai'i)に祝辞を頂戴した。また、縣運営委員長より挨拶を行った。

引き続き、「会期中の協力会場における科学映像の上映」として、本間運営委員と伊東事務局長より、協力会場及び各施設でのイベントの紹介と、翌3月14日(土)から4月5日(日)に開催したスタンプラリーの説明を行った。

休憩を挟み、戎崎運営委員の司会で、大村皓一氏(宝塚造形芸術大学メディアコンテンツ学部教授・学部長)による「Past, Present, and Future of Computer Graphics and Scientific Visualization」及びAlyssa A. Goodman氏(Professor, Harvard-Smithsonian Center for Astrophysics)による「Seeing Science」二題の招待講演があった。

式典終了後、会場を展示棟4階シンラドームに移し、懇親会に先立って立体フルデジタルドームシアターのデモンストレーションが行われた。

戎崎運営委員による科学ライブショー「ユニバース」特別版の上演と高幣運営委員によるシンラドームの機能を十二分に活かしたデモンストレーションに加え、式典後半に引き続き大村氏もご参加下さり、作品「colors」のフルドームでの紹介が行われた。

懇親会は地階レストラン「ザ・スペース」にて行われ、立食形式にて多くの参加者や関係者が熱心に意見を交換したり挨拶したりする姿が見られた。

サイエンスホールでの式典においては、総合司会として、フリーアナウンサーの近藤淳子氏にご尽力頂いた。

また、式典及びシンラドームでのデモンストレーションにおいては、学生ボランティア集団ちもんずの諸氏に多大なご協力を頂いた。

オープニング・イベントの開催にご協力頂いた関係各位、参加者の皆様に感謝申し上げます。

(2) 4D2Uサミット

2009年3月16日(月)からの2日間、「国際科学映像祭 ドーム&立体プレイベント 2009」の実行委員会主催コアプログラムの1つとして、4D2U※¹サミットを国立天文台三鷹(東京都三鷹市)で開催した。4D2Uユーザ※²中、一時使用でなく、常設または定期的に4D2Uコンテンツを公開・使用している団体に所属する担当者を対象とした。今回の目的は、4D2Uコンテンツをどのように活用しているのか、デモンストレーション等で紹介し、情報交換をすることである。したがって、会場をドームに設定したため、40名定員とした。



1日目、4D2Uコンテンツを送り出している牧野運営委員(国立天文台天文シミュレーションプロジェクト長)の挨拶から始まり、前半は、コンテンツを発信する側からの講演を5講演行った。後半と2日目は、8団体より10のデモンストレーションや発表があった。システムが異なるにもかかわらず、挑んでいただいたデモンストレーションや発表は、星空中心であったり、宇宙の紹介であったり、ロマンティックなお話があったり、独自のコンテンツを作成していたりと、何れも個性的で特徴のあるすばらしいものであった。最後は、4D2Uコンテンツや4D2Uプロジェクトに望むこと等の時間も設けた。コンテンツそのものに関する要望の他に、ユーザ同志の情報交換の場の提供といった意見も多く頂戴した。

短期間の募集だったにもかかわらず、総勢44名の参加があり、多くの講演、発表等をいただき、大変有意義な会になった。この場をお借りして、参加された皆様、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げたい。

※1 4D2Uとは、Four-Dimensional Digital Universeの略で、観測データと理論に基づいた宇宙の構造とその進化をコンピュータによって描き出す宇宙のことである。

※2 4D2Uユーザとは、4次元デジタル宇宙コンテンツ利用許可申請書を提出している団体あるいは個人のことである。



(3) 高臨場感科学映像 国際シンポジウム

3月22-23日の2日間国立天文台三鷹（東京都三鷹市）で高臨場感科学映像国際シンポジウム（International Symposium for Immersive Science Visualization）を開催した。このシンポジウムは科学研究者、科学映像可視化の研究者や専門家、企業の方々、芸術家、コンテンツの制作者、映像を教育やエンターテインメントに活用しようと考えているの方々など多彩であった。企画構成は田部運営委員にお願いした。海外から10名近くの方が参加され、発表も全て英語で行われた。参加者数は133名であった。

初日は立体映像関連の企業、開発メーカーの発表、そして立体ドームシアターの報告があった。ハワイに開館した立体ドームシアターからの報告もあった。新たに開発された超高精度精細プロジェクターなど技術的な発表の他に、国立天文台科学文化養成ユニットが養成した科学映像クリエイター養成コース修了生の3つの修了制作作品の紹介もあった。夜は4D2Uシアターで、それら修了生の作品の投影やハワイのイミロア天文センターの立体映像作品の紹介など、盛りだくさんの投影が行われた。終了後立食パーティーが行われた。

2日目はドーム映像に重きを置いた内容と海外や国内のハード及びコンテンツ開発者の発表があった。パネルディスカッションでは戎崎運営委員の司会で、アメリカ自然史博物館のサイエンス・ビジュアルライゼーション・ディレクターのカーター・エマート博士を始め大型映像の専門家エド・ランツ氏、ユニビュー代表のスタファン・クラッシュト氏、E&S社のティレンス・マーター氏、スカイスキャン社社長のステーブ・サページ氏、日本からも運営委員の高幣氏が参加して、ドーム映像や立体映像の未来について議論を行った。

発表は、初日16件、二日目に17件の計33件であった。パネルディスカッションは将来への夢を語る内容であったが、この種のセッションにつきものの時間不足が残念であった。

日本には現在、立体視映像を供することのできるドームシアターが3施設ある。それが全て集中している東京は世界的にも特異な都市かも知れない。さらに普通のプラネタリウムも着々とデジタル化が進行している「高臨場感科学映像大国」である。ただし、それぞれの経験や成果が広く共有されて、さらなる発展の糧になっているかということが残念ながら不十分である。

このような現状について、この分野の世界の最先進国であるアメリカの2大メーカーの中心人物を、さらにはヨーロッパ、日本の重要人物が一同に会して議論ができたことは非常に有意義なことだったと感じている。



世界天文年
2009

Preparatory Event 2009
featuring Full Dome & Stereoscopic Movies
for the International Festival of Scientific Visualization

ドーム&立体イベント2009

国際科学映像祭

2009 3.13-23

開催会場

3.13 オープニングイベント 科学技術館(東京都千代田区)

3.22-23 国際シンポジウム 両日とも国立天文台(東京都三鷹市)

お問い合わせ先

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

<http://image.sci-fest.net/>

はじめの... 天の川...
「...」...
くる... の地球内部...
「...」...
ミラクル大冒険...
3施設をまわると記念品ももらえるよ!

会場一覧

JAXAI、板橋区立教育科学館、科学技術館、葛飾区郷土と天文の博物館、国立科学博物館、国立天文台、コニカミノルタプラネタリウム「満天」、杉並区立科学館、すみだ生涯学習センターユトリヤ・スターガーデン、多摩六都科学館、日本科学未来館、日本橋室町ギャラリー「宙」、サイエンスドーム八王子、東大和市立郷土博物館、府中市郷土の森博物館、プラネタリアム銀河座、三鷹ネットワーク大学

お問い合わせ先

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

ポスター

Preparatory Event 2009
featuring Full Dome & Stereoscopic Movies
for the International Festival of Scientific Visualization

ドーム&立体イベント2009

国際科学映像祭

ドーム&立体イベント
2009

私たちは、良質な科学映像コンテンツを広く紹介し、多くの人々に見ていただく機会を提供し、あわせてコンテンツや技術開発に関わる人々の情報交換および科学映像クリエイターの発表の場として新たな国際的な科学映像祭の開催を目的としています。本「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」は、その開催を目的に、意見交換あるいは準備を目的し実施するものです。

トピックス

2009/4/23 プレイメントにご参加いただいた皆さまありがとうございました。今後は、他協会を毎月1回程度開催していく予定です。次回開催会は、2009年5月28日(木)15:00～@科学技術館で開催します。

2009/3/26 **国際シンポジウム当日の様子を掲載しました。(総論記)**

2009/3/23 **国際シンポジウム終了しました。たくさんのご参加ありがとうございました。**

2009/3/18 **国際シンポジウムProgram&Abstractsを掲載しました。**

2009/3/16 **国際シンポジウムは定員に達しましたので、申込を締め切りました。**
お申込された方には、3月17日以降に参加確定メールを返信いたします。今しばらくお待ちください。

2009/3/10 **オープニング・イベントの申込を締め切りました。**

2009/3/6 **お申込された方には、3月9日以降に参加確定メールを返信いたします。今しばらくお待ちください。**

2009/3/3 **スタンプラリー詳細公開**
オープニング・イベント及び国際シンポジウムの定員にまだもう少し余裕があります。お早めにお申し込みください。

2009/2/13 **オープニング・イベント：参加申込開始**

Web <http://image.sci-fest.net/>



世界天文年
2009

Preparatory Event 2009
featuring Full Dome & Stereoscopic Movies
for the International Festival of Scientific Visualization

ドーム&立体イベント2009

国際科学映像祭

2009 3.13-23

開催会場

お問い合わせ先

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

<http://image.sci-fest.net/>

14日間の科学映像祭 ドーム&立体イベント2009の開催に向けて

協力機関に関する科学映像の上映

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

スタンプラリー

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

実行委員会主催プログラム

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

パンフレット(全体)



世界天文年
2009

Preparatory Event 2009
featuring Full Dome & Stereoscopic Movies
for the International Festival of Scientific Visualization

ドーム&立体イベント2009

国際科学映像祭

2009 3.13-23

開催会場

3.13 オープニングイベント 科学技術館(東京都千代田区)

3.22-23 国際シンポジウム 両日とも国立天文台(東京都三鷹市)

オープニング・イベント

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

<http://image.sci-fest.net/>

オープニング・イベント改訂

14日間の科学映像祭

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

講演: "Past, Present, and Future of Computer Graphics and Scientific Visualization"

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

パンフレット(オープニング・イベント)

オープニング・イベント改訂

14日間の科学映像祭

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

講演: "Seeing Science"

「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局
Tel.0422-34-3802
E-mail:info@image.sci-fest.net

制作物

スタンプラリーについて

スタンプラリーは、一般の方々にこのイベントを周知し、たくさんの科学映像を見ていただくという趣旨で企画した。16 施設ある会場の中で、13 施設が参加した。利用者に周知する期間も実際に実施した期間も短かった割には多くの方が参加された。これも、理化学研究所、国立天文台、宇宙航空研究開発機構から多くの記念品の提供抜きにはなかったと思う。その品々は、国立天文台から国立天文台 20 周年記念 DVD や国立天文台ひので DVD、星座早見盤、JAXA から携帯ストラップや月周回衛星「かぐや」クリアファイル、お箸など、理化学研究所から携帯ストラップや下敷き、マウスパッドなどだった。記念品を提供して下さった各機関には、この場を借りて御礼申し上げたい。

参加者の様子は、当館での状況や各施設から伺ったところ、春休み期間も含まれていたもので、親子で楽しそうに回っている姿が見受けられ、来場者に大変好評だったようだ。本イベントでは、準備も万端に、参加館も増やして実施できるとさらに成果が期待できると思う。

ちなみに、このスタンプラリーを実施するにあたってモデルとなったスタンプラリーがある。それは、2008 年 3 月末から約 2 ヶ月間、国立天文台、サイエンスドーム八王子、東大和市立郷土博物館、府中市郷土の森博物館の 4 施設で地域の天文施設スタンプラリーとして、活躍中の科学衛星展示と合わせて行ったものだ。

・日時：2009 年 3 月 14 日(土)～4 月 5 日(日)

・参加施設：JAXAi、板橋区立教育科学館、科学技術館 シンラドーム、葛飾区郷土と天文の博物館、

国立科学博物館シアター 360(妙・町・丸)、国立天文台 4 次元デジタル宇宙シアター、杉並区立科学館、

すみだ生涯学習センター ユートリヤ・スターガーデン、多摩六都科学館サイエンスエッグ、

日本科学未来館ドームシアターガイア、八王子市こども科学館サイエンスドーム八王子、

東大和市立郷土博物館、府中市郷土の森博物館

・スタンプ台紙推定配布枚数：約 6000 枚

・3 館以上まわり施設で記念品を受け取った方：146 名

・5 館以上まわり事務局より記念品を受け取った方：39 名

国際科学映像祭 ドーム&立体 イベント2009スタンプラリー

開催期間：3月14日(土)～4月5日(日)

スタンプラリー参加方法 このスタンプラリーはどなたでも参加できます。

スタンプを3館以上集めた方は、各施設の引き換え窓口へお越しください。施設ごとに、先着50名さまには記念品(星座早見盤や特製下敷き、天文書籍シール)を差し上げます。記念品はなくなり次第、終了とさせていただきます。また、5館以上集めた方は、下記にお送りいただけますと先着50名様に豪華記念品(国立天文台特製DVDなど)を差し上げます。なお、当選者は記念品の発送をもってかえさせていただきます。

※スタンプの収集および取換引換場所は、各会場でご確認ください。なお、台紙はおひとり1枚でお断りします。

送付先：〒181-8588 東京都八王子市大沢 2-21-1 国立天文台 天文情報センター内
「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局 Fax:0422-34-3812

国際科学映像祭 ドーム&立体 イベント2009スタンプラリー

開催期間：3月14日(土)～4月5日(日)

スタンプラリー参加方法 このスタンプラリーはどなたでも参加できます。

スタンプを3館以上集めた方は、各施設の引き換え窓口へお越しください。施設ごとに、先着50名さまには記念品(星座早見盤や特製下敷き、天文書籍シール)を差し上げます。記念品はなくなり次第、終了とさせていただきます。また、5館以上集めた方は、下記にお送りいただけますと先着50名様に豪華記念品(国立天文台特製DVDなど)を差し上げます。なお、当選者は記念品の発送をもってかえさせていただきます。

※スタンプの収集および取換引換場所は、各会場でご確認ください。なお、台紙はおひとり1枚でお断りします。

送付先：〒181-8588 東京都八王子市大沢 2-21-1 国立天文台 天文情報センター内
「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局 Fax:0422-34-3812

国際科学映像祭 ドーム&立体 イベント2009スタンプラリー

開催期間：3月14日(土)～4月5日(日)

スタンプラリー参加方法 このスタンプラリーはどなたでも参加できます。

スタンプを3館以上集めた方は、各施設の引き換え窓口へお越しください。施設ごとに、先着50名さまには記念品(星座早見盤や特製下敷き、天文書籍シール)を差し上げます。記念品はなくなり次第、終了とさせていただきます。また、5館以上集めた方は、下記にお送りいただけますと先着50名様に豪華記念品(国立天文台特製DVDなど)を差し上げます。なお、当選者は記念品の発送をもってかえさせていただきます。

※スタンプの収集および取換引換場所は、各会場でご確認ください。なお、台紙はおひとり1枚でお断りします。

送付先：〒181-8588 東京都八王子市大沢 2-21-1 国立天文台 天文情報センター内
「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局 Fax:0422-34-3812

国際科学映像祭 ドーム&立体 イベント2009スタンプラリー

開催期間：3月14日(土)～4月5日(日)

スタンプラリー参加方法 このスタンプラリーはどなたでも参加できます。

スタンプを3館以上集めた方は、各施設の引き換え窓口へお越しください。施設ごとに、先着50名さまには記念品(星座早見盤や特製下敷き、天文書籍シール)を差し上げます。記念品はなくなり次第、終了とさせていただきます。また、5館以上集めた方は、下記にお送りいただけますと先着50名様に豪華記念品(国立天文台特製DVDなど)を差し上げます。なお、当選者は記念品の発送をもってかえさせていただきます。

※スタンプの収集および取換引換場所は、各会場でご確認ください。なお、台紙はおひとり1枚でお断りします。

送付先：〒181-8588 東京都八王子市大沢 2-21-1 国立天文台 天文情報センター内
「国際科学映像祭 ドーム&立体イベント2009」事務局 Fax:0422-34-3812

来館記念
板橋区立教育科学館

こちらのスペースに自由にスタンプを押してください。

施設チェック用

事務局に届いたスタンプ台紙の一部



記念品の数々

宇宙にいきたい。



事務局に届いたスタンプ台紙の一部

協力会場の声

国立科学博物館では「シアター360」の付近でスタンプラリーを実施しました。実施期間が春休み中にあたり、シアターも大変多くのお客様でにぎわいました。当館ではスタンプの台紙を期間中3000枚以上配布、あまりの人気ぶりに台紙の印刷が追いつかないほどでした。シアターをご覧になったお子さん達は思いがけず記念スタンプを押せてたいへん喜んでいました。また、親子連れの方などスタンプラリーの実施を知り、他の会場について問い合わせたいという姿も多く見かけました。



記念品の引換にいらした方は22人で、配布した台紙の枚数に比べると少なめでしたが、記念品を受け取ると皆様大変嬉しそうでした。予想外の豪華な記念品で「こんなにたくさんいただけるのですか!」を感激される方もいらっしゃいました。



今回、スタンプラリーに参加して記念品を受け取った事は、様々な施設への来館とあわせて皆様の良い記念になったようです。(国立科学博物館 久永美津子)

国際科学映像祭に参加させていただき、ありがとうございました。ユートリヤ・スターガーデンでは、3月14日～4月5日のプラネタリウム観覧者数は369名です。スタンプを押した数14、差し上げた景品10でした。当館は京成線沿線にある為、「国立科学博物館」、「葛飾区郷土と天文の博物館」の後、3館目に当館を回ったというお客様が多い印象でした。



ユートリヤ・スターガーデンは、すみだ生涯学習センターに設置されているプラネタリウムで、18mの傾斜型、光学式のプラネタリウムです。一般投影ではオート番組の前に星空解説をご覧頂き、子ども向けのちびっ子タイム番組では、オート番組のお話の中で生解説が入ります。当館の



使命は「星空の魅力を伝えること」、星空を大切にしています。また、地域の科学的な文化に貢献したいと番組のソフトは地域のボランティアと協働で作成しています。スタンプラリーではいろいろな館を回ることができ、各館の違いを楽しんでいただけたのではないのでしょうか。(ユートリヤ・スターガーデン 岩上洋子)

プラネタリウムなどで投影される科学映像が評価され、もっと多くの方に楽しんでいただけるきっかけになったらと思います。企画の段階からさせていただきました。運営委員という立場をいただきましたが、あまり貢献できず申し訳ありませんでした。



今回のイベントの全てに参加できたわけではありませんが、国際シンポジウムを核にさまざまな取り組みがあり、イベントと言っていますが、本番はこれ以上のことができるのかというぐらいの内容で、いろいろ



勉強になり、たくさんの刺激を受けることができました。その中でも、プラネタリウムの枠組みを超えた交流が少しですが、できたことが一番の収穫だと思います。これからは、国際科学映像祭の本番になりますが、ひとりでも多くの方が、この映像祭を今か今かと待ち望むようになるようなイベントに育っていくことを願います。(府中市郷土の森博物館 本間隆幸)

科学映像に関する国際シンポジウム、それもドーム映像や立体映像に特化した内容で行うという話を聞いたのは、昨年11月旭川でのことだった。年に数回行っているデジタルプラネタリウムワークショップと内容的に重なる部分も多い。立体の内容はともかく、ドーム部分ならシンポを開催することはタイミング的に問題ない。しかし、立体部分の内容をどう取り揃えるかと、国際シンポジウムということで、言語をどうするかということ、それと肝心な内容をどうするかということは見えないままスタートしてしまったのが実情であった。

現象を可視化することをサイエンスを行うための道具として使う、つまり、従来数学が物理学の道具であったのと同じようなセンスで可視化技術が物理現象理解の道具にしようという方向を考えることができる。一方、可視化技術そのものや得られた映像を教育や普及にどのように使うかといった実践的な内容を主体としたシンポジウムのあり方が考えられる。本来なら前者の内容で行うべきだったのかも知れない。しかしながら、集められそうな内外の顔ぶれと、準備時間の少なさから考えると、前者は応募してくれたらいいなという程度で、後者に重点を置かざるを得ないものとなってしまった。ひとえに私を含めたコーディネータの力不足によるものである。

シンポジウムの内容は、ミニIPS日本版といったもので、海外からの招待講演者も天文教育業界の人々がメインとなった。加えて企業の方々の多大な協力で、拡大版デジタルプラネタリウムワークショップと考えると素晴らしく充実した刺激に満ちた内容であったと思う。可視化のサイエンスとストレートに扱った内容ではなかったことは、もしくはそのような内容が少なかったことは否めないが、もしもこのシンポジウムを続けるのであれば、「天文教育のためのドーム&立体映像シンポジウム」に特化したセッションと、他にあるべきセッション（科学映像、医学生命科学映像などの分野や、映像科学、映像技術の分野、企業による新製品開発の分野など）とのパラレルセッションとすべきであろう。

言語に関してはほぼ全ての発表が英語で行われた。国際シンポジウムとしての体面は保たれたかも知れないが、この方法で次回も行うべきか疑問もある。拡大版デジタルプラネタリウムワークショップなら日本語で十分だろう。隔年で開かれるIPSの合間に（つまり隔年で）行うのなら、海外からの参加者も集まりやすいし、新作全天映像を一同に集めての上映会が行われればお祭りの中の1イベントとしては盛り上がるだろう。その場合、規模も4-5日のものとし、セッションは2-3の平行、準備期間も1年ほどかけたいものである。その中で再び天文～ドームセッションが開かれるのであれば喜んでお手伝いしたいと思う。（株式会社リブラ 田部一志）

参加者の声

国際科学映像祭ドーム&立体プレイベントに、事務局の会合から本番までほとんどフル参加して、企画から段取り、各会場の運営セッティング、そして実施当日までの様々な場面を初めて経験させていただきましたが、多くの方々の多岐にわたる動きを目の当たりにして大変良い勉強になりました。

当初は一般参加者が少ないのではないかと不安もありましたが、外国関係者にはもう少し多く参加して欲しかったものの、多数の国内関係者が非常に高い関心を持って参加されたので、次回に希望をつなぐことができました。

残念だったのはほとんどがプラネタリウム関係者だったことです。内容がプラネタリウム関係のカンファレンスと重複している印象が強く、プラネタリウムに関わっている者としてはさらに広い分野の映像技術とコンテンツに触れたいと感じた次第です。その中で「4D2Uサミット」はこれからのドーム&立体映像の新たな方向性を示す興味深いものでした。

今後も本イベントに向けて協力させていただければと思います。

（株式会社五藤光学研究所 高橋由昭）

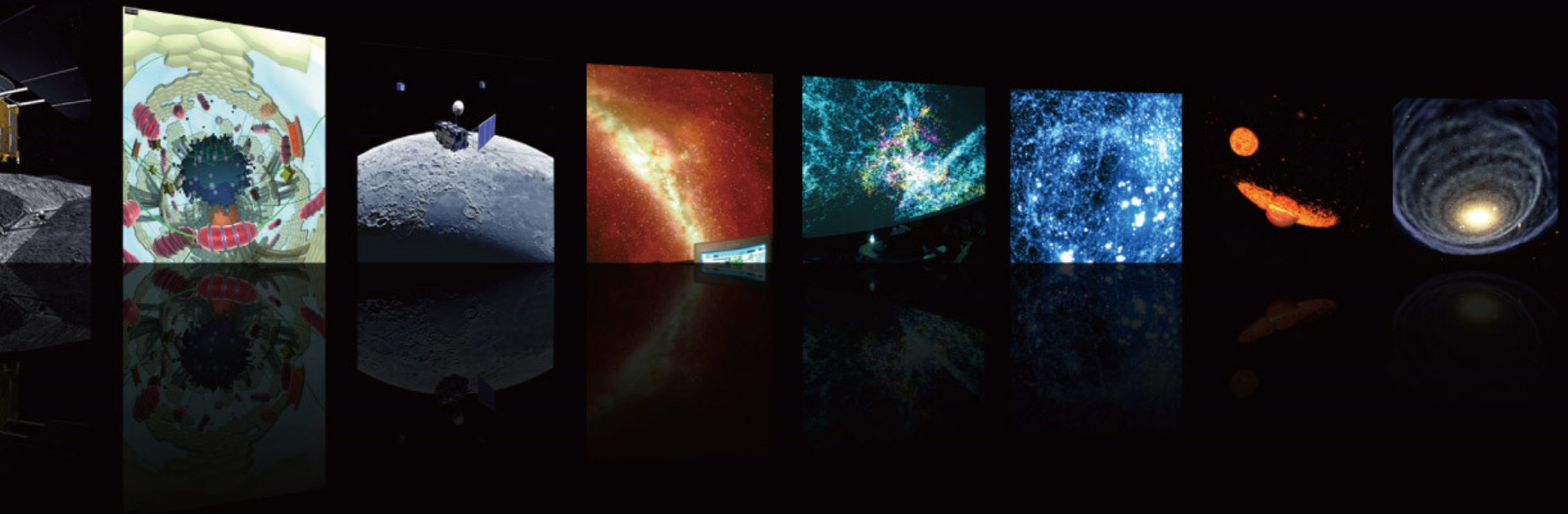
国際的な科学映像祭の開催に向けて

2009年の国際科学映像祭プレイベントが無事終了した。この間の、関係各位それぞれのご支援・ご協力に深く感謝したい。また、今回ホスト役を務めさせていただいた、私ども国立天文台の力不足、準備不足に関して率直にお詫びしたい。プレイベントとは言え、私どもからの提案に対し、短い期間のお声掛けにもかかわらず、60を超える団体が本イベントに主催者側として参加されたことは、国際科学映像祭本番に向けての準備作業において、貴重な一歩を踏み出せたのではないかと感じている。今後、実質的・継続的にこの連帯の環を押し広げていきたい。

今回のプレイベントを通じて、科学映像に関する期待や可能性と現実とのギャップを痛切に感じることができた。いま、科学映像を取り巻く現状は決して明るいものではない。映像のデジタル化、大型化、立体化、IT化（ネット配信など）、技術の高度化などに対して、それらに関わる企業・団体・個人が細かく分断・棲み分けされていて、まるで20世紀にたこつぼ化した科学研究の現場のようだ。さらに学術のような評価の仕組みがほとんど機能していないので、優れた人材や優れた映像が評価されにくい。このままでは、著作権問題や映像アーカイブ、人材養成、マーケティング等の切迫した諸課題の解決はほど遠い。自己満足や自己犠牲の上でのみ成り立つような科学映像制作に終止符を打ち、元々コミュニティーや個人に内在する創造性、芸術性、科学性等の優れたパワーを全開にするには、国際的な競争力の獲得と、国際市場を視野に入れた大胆な行動目標がいまこそ必要である。

一方、科学の可視化は、科学を文化として浸透させていく上でも、学術研究者と一般市民との間におけるコミュニケーション手段として今後、重要な役割を担うことだろう。科学にまったく興味を持たないという人でも、「人」（例えば、アインシュタインとか宇宙飛行士、ノーベル賞受賞者とか）、「教育」、他の文化的活動との「コラボレーション」、そして「映像」には関心を寄せる。優れた科学映像は子どもや無関心層から研究者まで、あらゆる関心度、理解度の人びと一人一人に訴えるものがある。科学技術の国、映像文化の国、日本でこそ第1回国際科学映像祭の開催が似合う。科学映像祭を東京で実施すべきではないだろうか。今後の予定としては、毎月1回、運営委員会中心に勉強会を実施するとともに、海外からの参加者も含め、議論のMLの設置する予定である。2010年度中の第1回国際科学映像祭に向けて、本報告書をお読みの皆様、ご協力・ご支援をどうかよろしく申し上げます。

国際科学映像祭ドーム&立体プレイベント実行委員会
運営委員長 縣 秀彦（国立天文台）

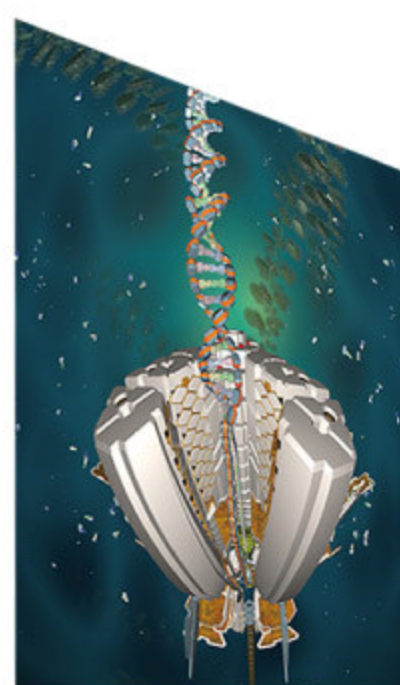
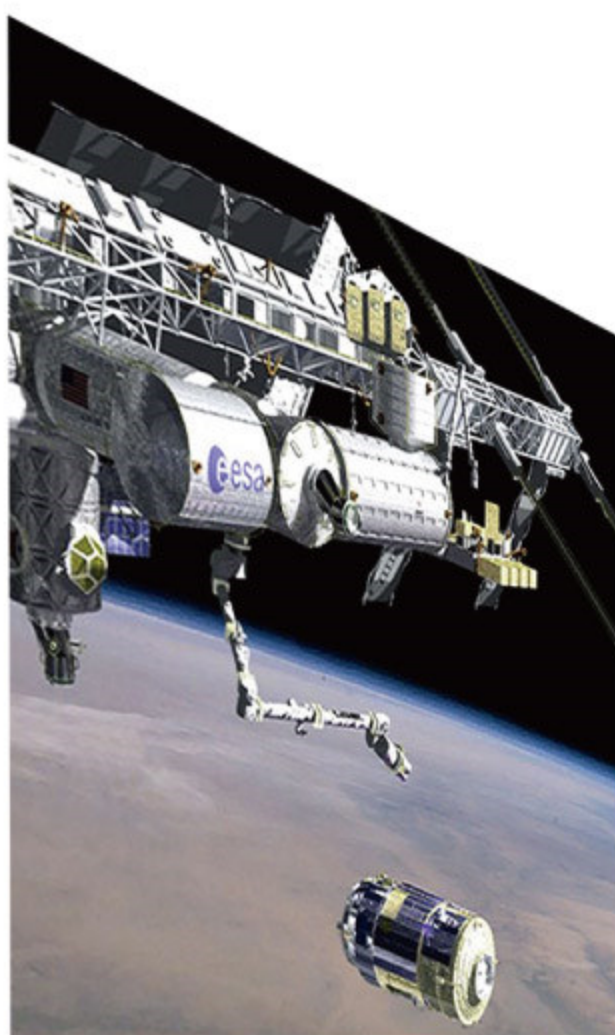
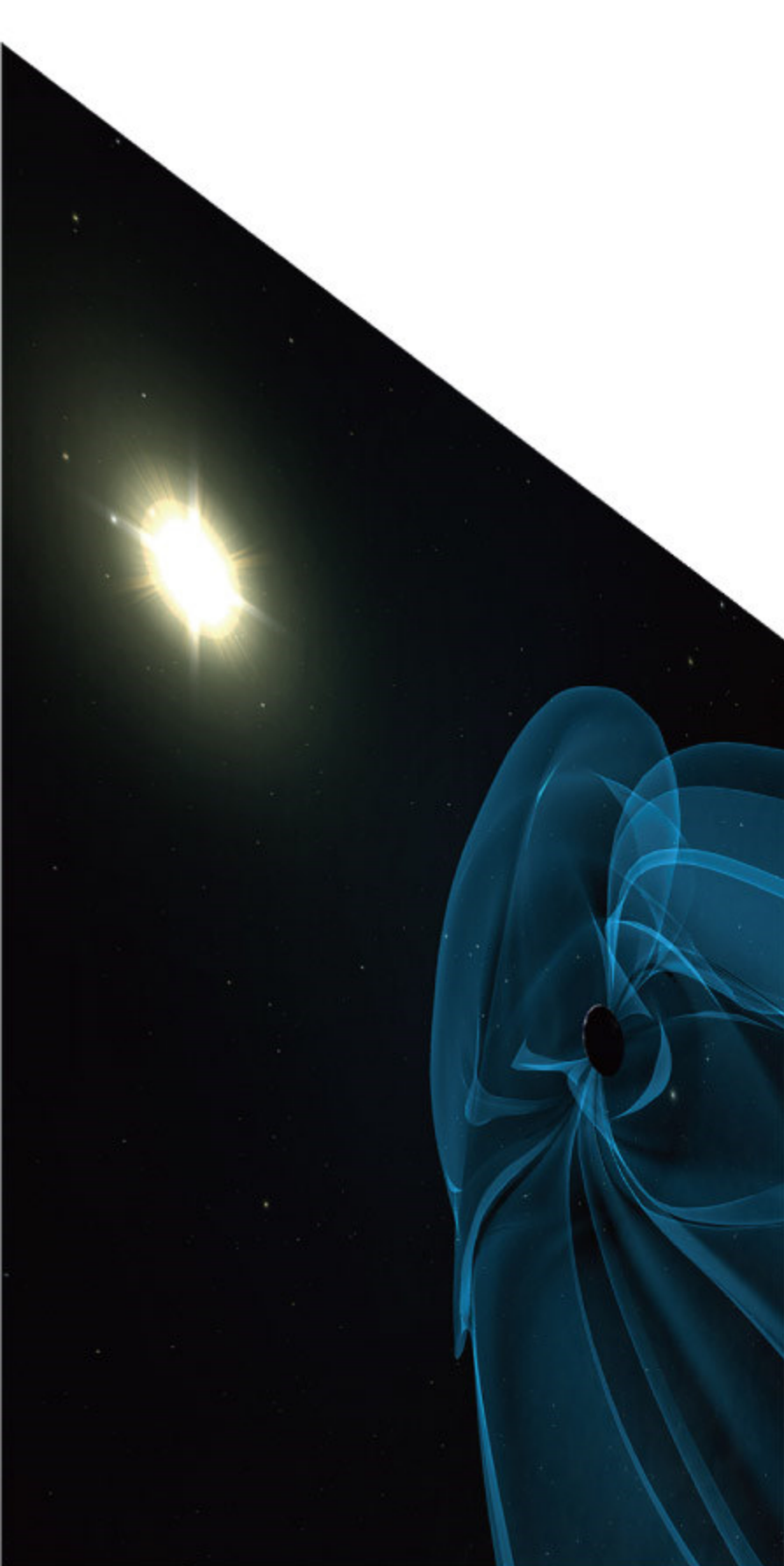


発行日：2009年6月30日

制作：国際科学映像祭ドーム&立体プレイベント2009実行委員会

デザイン：渡辺 有摩（国立天文台科学文化形成ユニット科学映像クリエイター養成コース修了生）

印刷：有限会社ノースアイランド



主催：国際科学映像祭 ドーム&立体プレイベント 2009 実行委員会
共催：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構国立天文台
財団法人 日本科学技術振興財団